

阿部直哉著 ニュースでわかる「世界エネルギー事情」

本書『ニュースでわかる「世界エネルギー事情」』は、日々配信されるニュースやリリースなどをもとに、各国・地域別にエネルギー最新情報をまとめたものです。また、専門家の見解を紹介することで、世界中で展開されるエネルギー分野の動きを知ることができるようにしました。さらに、今後のエネルギー動向を探るうえで、ヒントが得られると考えています。

価 格

1 冊 1,019 円 (税込、送料別)

目 次

<p>第 1 章 原油安ショック</p> <p>OPEC 総会 = 「減産」をめぐる加盟国の攻防—ベネズエラが行脚し説得 原油安 = 米国はシェール投資が減少、ロシアはプロジェクト実現困難へ OPEC 減産見送り = ベネズエラが国家予算削減、中国は備蓄量増加へ 原油安 = 新規プロジェクト投資決定の延期が表面化 原油安 = 2015 年の石油プロジェクトの多くが棚上げか？ OPEC で早くも足並みの乱れ？ イラクが輸出増へ 原油安 = 企業の資産売却や開発投資額の削減に拍車かかる 原油安 = 米国内に製油所を持つ企業の多くは収益改善 原油安 = 米独立系エネルギー企業には深刻、予算編成で四苦八苦 2015 年の原油生産量が非 OPEC 産油国で増加見通し 原油安ショック = 原油価格はどの水準まで耐えられるのか？ 原油安 = インドネシアは土地課税撤廃、米レンジは集中投資 原油安 = 油田サービス企業が人員整理、オマーンが OPEC 批判 原油安 = 企業活動に悪影響が出るなか、OPEC は現状維持</p>	<p>第 5 章 中東エネルギー事情</p> <p>サウジ = OPEC の有効性を疑問視か、総会の年 1 回開催を提案 サウジ = 天然ガス開発で「在来型」から「非在来型」に方向転換へ クウェート = 陸上生産油田の開発、製油所の増強・新設を加速 クウェート = 国内製油所の再編・新設で 400 億ドル規模の投資計画 UAE = アブダビ陸上油田の権益獲得で競争激化、海外勢が入札へ UAE = 世界三大バッキング拠点として発展する酋長国「フジャイラ」 ヨルダン = シェールオイル発電計画を承認、エストニア企業が参入へ オマーン = 同国初のタイトガス商業生産が本格スタートへ イエメン = 政権崩壊で混迷度が増幅—LNG 輸出の停止で不可抗力宣言も トルコ = 周辺国の紛争に振り回されるも、黒海での石油開発に注目 イスラエル = リバリアンガス田の埋蔵量が增加、最新探査で判明 イラク = 好調な原油生産で求められる出荷ルートの多様化 イラク = 追いつかぬインフラ整備、出荷能力の増強がカギ イラク中央政府 = クルド地域政府とバイブライン原油輸送で火花散らす イラク中央政府が「密輸」とするクルド原油の扱いで外資企業が困惑も イラク情勢 = イスラム国の「原油」闇取引、1 日 200 万ドルに上る？ イラン = 中国を痛烈に批判、権益没収も示唆、工期遅延の油田開発で イラン = エネルギー開発契約の条件見直し本腰か、外資にラブコール イラン = 天然ガス輸出大国へ、カザフスタンの開発動向 イラン = イラクと関係強化へ、バイブラインや CN 基地建設計画で イラン = 製油所の近代化計画が活況、ファンドの融資が必要とも</p>	<p>第 8 章 アフリカ・エネルギー事情</p> <p>エジプト = 厳しさを増すガス需給、夏場を乗り越えられるかが正念場 ナイジェリア = 原油泥棒が横行、企業は「バッキング」に泣き寝入り ナイジェリア = 石油盗難の回避で外資開発が「内陸」から「沖合」へ アルジェリア = 「イナメナス事件」後で初の入札説明会を開催へ アルジェリア = 不調の新ライセンスラウンド、31 鉱区で落札は 4 鉱区 アルジェリア = 石油・天然ガスの輸出低迷で「シェールガス」に活路 リビア = 治安悪化で産油量激減も、豊富な外貨準備高で危機感なし リビア = 原油増産態勢へ、国際市場への本格的な復帰となるか モロッコ = 大西洋沖で探鉱活動、外資の新規参入が相次ぐ ガーナ = 原油生産の倍増・天然ガス計画が始動へ、エボラ出血熱が懸念 ウガンダ = 同国初の製油所建設プロジェクト入札合戦が佳境に入る アンゴラ = 同国初の LNG プラント、運転停止が長期化の様相 モザンビーク = 外資の GTL 計画が始動、周回遅れの日本は巻き返しへ スーダン = 国内で天然ガス開発と LNG 輸入を検討—大統領が表明 チャド = 石油吸入配分で外資との亀裂が鮮明、エネルギー管理強化へ</p>
<p>第 2 章 北米エネルギー事情</p> <p>シェール革命の成否 = フラックチャリング技術の開発競争で凌ぎ削る 米国シェール事情 = エネルギー旋風を巻き起こすノース・ダコタ州 米テキサス州 = バイブライン輸送開始、新規油田で原油生産の活況続く 米オクラホマ州 = 頻発する地震発生で「シェール犯人説」が浮上 米カリフォルニア州 = リッチモンド市議会で製油所の近代化を承認 米国エネルギー事情 = 「シェールの風が吹けば、砂塵が儲かる」 米国エネルギー事情 = 原油増産で止まらぬ「鉄道」輸送量の増加 米国 = 好調な原油やシェールガス価格が明白も、原油安が懸念材料 ALF-CIO が警告 = 石油・ガス事業従事者の高い労災死亡率 米英専門家 = シェール革命で米国は「Game Changer」と成り得ない？ 米政府 = 国内でのエネルギー開発プロジェクトで助成、融資保証へ 米国の「原油輸出解禁」が現実味、実現すれば 40 年ぶり 原油輸送手段をめぐる攻防 = バイブライン建設は「NIMBY」か？ 米中間選挙 = キーストーン・バイブライン建設許可に期待感—共和党圧勝 米国 = バイブライン法案が上院で可決、コンデンサート輸出解禁へ動きも カナダ = オイルサンド（油砂）開発の現状と見通し カナダ = 米国のバレンセ社社長、ジョーダン・コブ = LNG 優位性を強調 カナダ = 太平洋岸で進む PPEC 製油所計画、投資額は 100 億ドル カナダ = LNG 輸出税に注目—外資の事業撤退やプロジェクト延期で</p>	<p>第 6 章 アジア・エネルギー事情</p> <p>中国エネルギー事情 = 国営石油企業の探鉱開発の現状と見直し 中国の天然ガス事情 = 「需給ギャップが当面拡大、輸入比率が上昇へ」 2020 年までに北京市の主要地区で「石炭」の使用を禁止へ 中国 = 天然ガス開発の目標値を縮小し、タイトガス開発にシフト 中国 = シェール開発で苦戦続く、政府は第 3 次入札にこの足を踏む バングラデシュ = LNG 受入基地計画の遅延懸念、政治的安定が先決 韓国 = 第 2 次国家エネルギー計画、原発 7 基分の容量不足が露呈 アゼルバイジャン = 欧州向け TAP 選定から 1 年、独逸企業が撤退 アゼルバイジャン = インドやロシアとの連携強化も、課題が山積 カザフスタンはシムケント製油所工事の着工が 15 年春まで延期へ トルクメニスタン = ヘルディムハメドフ大統領が天然ガス増産を指示 インド = 人口爆発、エネルギー需要増で問われるモディ新首相の手腕 インド = グジャラート州で LNG 基地、製油所の建設計画が目白押し パキスタン = エネルギー分野で中印が綱引き、安全保障面で牽制も インドネシア = チェアプ鉱区で原油生産へ、生産域の確保し続けるか インドネシア = 天然ガスへの転換を図る、米国と LNG 輸入交渉へ インドネシア = 15 年原油生産の目標値—想定外を加味し増加幅を抑制 マレーシア = 7 番目の製油所建設へ—石油製品の自給力向上で タイ = PTT P がモザンビーク輸出、PTTEP がミャンマーで投資へ ベトナム = 新規油田の開発、製油所プロジェクト着工で活況 ベトナム = エネルギー事業が活発化、北極圏の油田開発にも進出へ ミャンマー = 天然ガス調達で最大輸入国のタイを脅かす中国の存在</p>	<p>第 9 章 欧州エネルギー事情</p> <p>英国 = エリザベス女王が議会演説、シェール開発推進でスピーチ 英国 = シェットランド諸島の西側地域を重点開発へ 英国 = スコットランド独立の是非を問う住民投票に注目 スコットランド = 英教授が「北海油田は 2050 年以降も採掘可能」 英国 = 縮小する北海大陸棚での石油開発事業—探査費用の高騰で 英国 = シェール「水圧破砕工法」で環境監視委が開発中断を提案 ドイツ = 水圧破砕がネックも、シェール開発に動き出す機運 フランス = 原発依存でシェール開発の緊急性が乏しい現実 ポーランド = シェールガス開発で試算、外国企業の撤退が相次ぐ ポーランド = シェール開発で法規制改正の動き、巻き返しなるか バルト 3 国 = 前途多難な原子力発電所の建設プロジェクト バルト 3 国 = ロシア原発建設の情報不足を懸念 バルト 3 国 = ロシアからの依存脱却で試行錯誤 フィンランド = LNG 基地建設を延期、E C から支援得られず ルーマニア = 大統領選で「シェールガスは存在しない」—首相発言が波紋 クロアチア = LNG 基地で欧州が支援、ロシアを刺激するとの懸念も ノルウェー = 「バレンツ海共同探査」が始動、極地向かう開発地域 LNG/バッキング = 北海、バルト海で増加—排ガス規制強化で デンマーク = シェール開発に本格参入か、市議会がガス試掘を許可へ 北欧 3 国 = ノルウェーで未開発埋蔵層、スウェーデンで LNG 基地建設 東欧 = モルドバ、リトアニアで進むロシアからのエネルギー依存脱却</p>
<p>第 3 章 ロシア・エネルギー事情</p> <p>ウクライナ問題 = ロシアとのエネルギー「密約」阻止で政変へ ウクライナ問題 = 2014 年のガス輸入、バイブライン逆送で解決か ウクライナ危機 = 外交カードとしての役割を担う国営ガスプロム ウクライナ情勢 = 米欧とロシアの制裁合戦、中国に漁夫の利か ロシア = 欧米の制裁を睨み、エネルギー開発で中国に傾斜強める ロシア = キューバ沖合の深海油田探査に乗り出す、ペンタゴンが懸念 ロシア追加制裁 = 内憂外患のオバマ政権、石油メジャーも反旗 ロシア = 中国の次は「インド」に触手、欧米と政治的な乖離が際立つ ロシア = 石油メジャーに警告、撤退すればプロジェクトをアジア企業に ロシア = 制裁発動など逆風下の石油・天然ガス開発で強気貫く ロシア = 事業縮小する石油会社なし、政府は緊縮財政で乗り切りか ウクライナ = EU からガス輸入、LNG 基地を計画—政変半年で攻勢 ロシア = ルコとのさらなる協力関係へ、バイブライン建設で新会社</p>	<p>第 7 章 中南米エネルギー事情</p> <p>メキシコ = エネルギー—新時代到来か—外資系が早くも参入機会窺う メキシコ = ベメックスのロソヤ CEO が来日、日本への投資呼びかけで パナマ = 運河拡張工事の遅延でシェール輸入の日本にコスト負担増か ニカラガ = 大運河計画に冷めた眼差し、パナマ拡張工事の 8 倍規模 ブラジル = 極限状態にある製油所の稼働率、政府が罰金科すケースも ブラジル = プレソール石油生産が 50 万バレル、開発余力に疑問の声も アルゼンチン = シェール開発に熱視線、参入待ちの外資が相次ぐ ベネズエラ = 「CITGO」売却へ、苦境に喘ぐ経済立て直しで ベネズエラ = 2015 年の国家予算編成で原油価格を 60 ドルに設定へ ベネズエラ = 製油所での安全対策が急務—火災事故の多発で ベネズエラ = 石油開発が停滞、政府の政策再検討の見方が併存 コロンビア = 石油可採年数 10 年未満、埋蔵量確保の大規模入札へ チリ = 2016 年上半年にも米国産シェールガスを輸入へ</p>	<p>第 10 章 海外エネルギー事情</p> <p>エネルギー—資産争奪戦—銀行撤退で一気呵成の投資会社・ファンド勢 海外石炭事情 = 環境規制で需要が鈍化も、生産能力の増強で供給可能 海外製油所 = 2020 年までの製油所への投資額は 3,330 億ドル 製油所の近代化で明暗 = 勢いづくアジア勢、苦戦する欧州勢の構図 欧州製油所 = 現実味を帯びる今後 10 年以内に 10 力所程度の閉鎖 米国 = 国内で製油所の新設計画が目白押し、原油安が後押し 海外エネルギー事情 = 保有資産の売却で事業再構築の動き 植物由来のエタノール = 増産傾向も原油安で再び生産反対の声も 中東・アフリカの地政学リスク = 紛争激化で外資企業の撤退が相次ぐ エネルギー開発 = プロジェクト中断や撤退に追い込まれるケース IEA 事務局長 = ガス業界は変化に即応を—LNG 開発プロジェクト IEA = 世界石油輸送のチョークポイント（渋滞地点）レポートを公表 航空産業 = バイオ燃料プロジェクトに積極投資、商業飛行も始まる ジェット燃料 = 中国が地溝油、英 HSB C が廃ガス由来の開発計画に参画 ジェット燃料 = 船舶燃料 = 技術革新が輸送コスト軽減、環境負荷の低減へ バイオ燃料 = 米ゲボが製造を増加、ルフトハンザはオスロ空港で使用 世界の LNG 基地建設 = 相次ぐ完工、ガス受入計画が急ピッチで進む 世界エネルギー事情 = LNG 事業で投資ラッシュ、供給過剰懸念も 石油・天然ガス採算コスト = オイルサンドと北極圏が最も高価な資源 増加するエネルギー輸送で脚光を浴びる「北極海航路」</p>
<p>第 4 章 オセアニア・エネルギー事情</p> <p>豪州 = 2014 年はブラウス鉱区など大規模入札実施 豪州 = クイーンズランド州で中期的存在となった「炭層ガス」 豪州 = 天然ガス売上の契約先探しで四苦八苦、値下げ合戦に発展も 豪州 = 「リザーブ」運動が広がる—国内向け天然ガスの一定量確保を 豪州 = 資源アームは新たなステージ—投資から生産段階へ ニュージーランド = 自然エネルギーを重視する独自路線を貫く パプアニューギニア = 日本向け LNG タンカーが初入港—式典開催</p>		